

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第4週 (1/22-1/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		4週	3週	2週	1週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	16
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	1/22-1/28	1/15-1/21	1/8-1/14	1/1-1/7	1/15-1/21
			4週	3週	2週	1週	3週
小児科	RSウイルス感染症		0	3	10	1	28
			0.00	0.17	0.56	0.06	0.21
	咽頭結膜熱		2	0	3	4	29
			0.11	0.00	0.17	0.25	0.21
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		23	37	39	20	405
			1.28	2.06	2.17	1.25	3.00
	感染性胃腸炎		94	136	118	71	852
			5.22	7.56	6.56	4.44	6.31
	水痘		2	1	4	2	39
			0.11	0.06	0.22	0.13	0.29
手足口病		1	5	2	2	17	
		0.06	0.28	0.11	0.13	0.13	
伝染性紅斑		2	1	1	0	7	
		0.11	0.06	0.06	0.00	0.05	
突発性発しん		5	9	9	2	52	
		0.28	0.50	0.50	0.13	0.39	
ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
流行性耳下腺炎		0	5	5	4	19	
		0.00	0.28	0.28	0.25	0.14	
インフル	インフルエンザ*（高病原性鳥インフルエンザを除く）	〇★★	1,619 57.82	1,432 51.14	669 23.89	240 9.23	13,065 61.05
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎	→	5	5	2	3	30
			1.00	1.00	0.40	0.60	0.86
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 〇:増加 〇:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	ツベルクリン反応	結核	女性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	40歳代	IGRA検査	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	男性	10歳代	病原体の検出
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等				
結核	女性	20歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出

・第4週は、結核5件(15)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(4)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第4週のコメント

<インフルエンザ> 前週より増加し57.82となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。

トピック

＜インフルエンザ＞

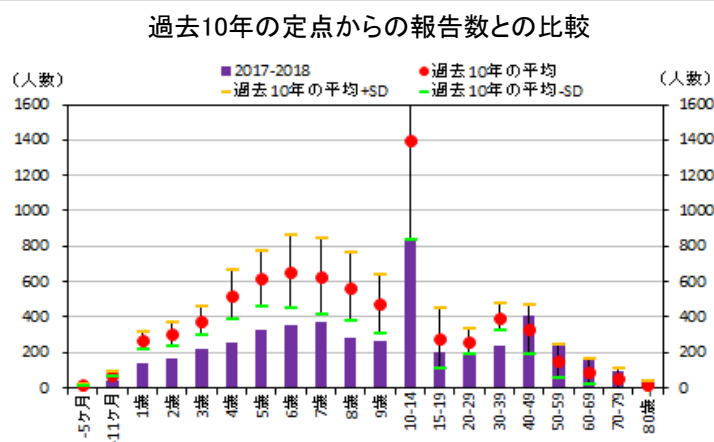
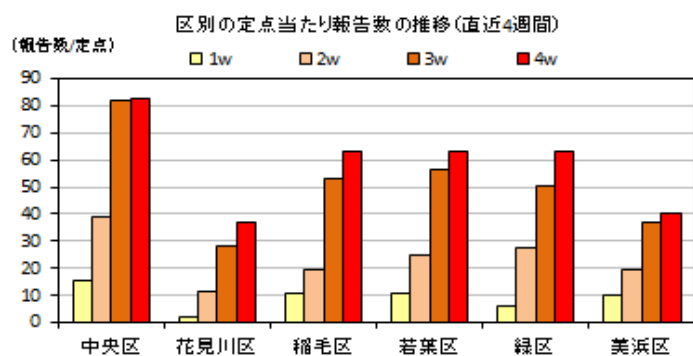
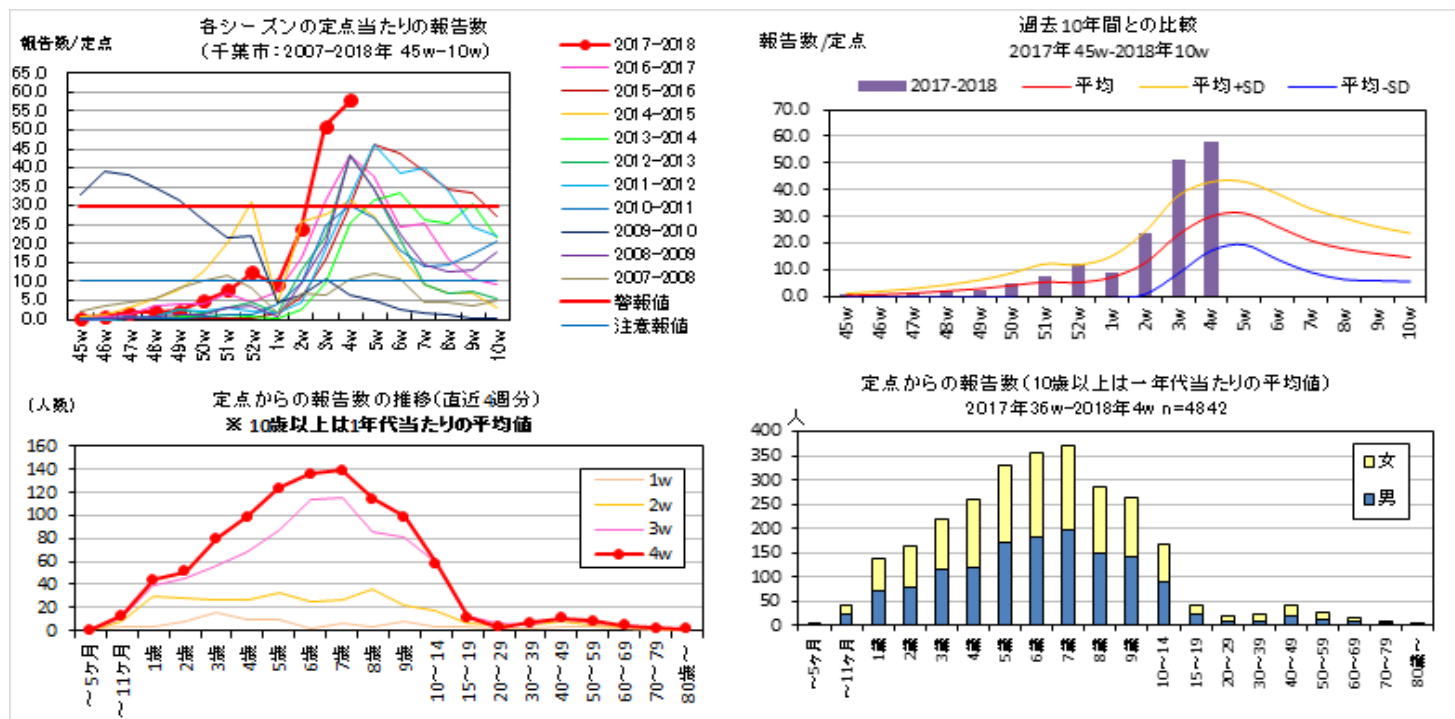
全国レベルの第3週は流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると最多で、これまで最多であった2015年の1.4倍となり、平均+2SDを上回り非常に多くなっています。都道府県別では鹿児島県、宮崎県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。

千葉市の2018年第4週は前週より更に増加し57.82となりました。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多で、平均+2SDを上回り非常に大きな流行となっています。

区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区(82.4/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最多、一年代当たりでは8歳で最も多く発生報告がありました。

型別迅速診断結果では、第4週はA型が19.1%、B型が67.9%、その他A型及びB型が0.1%、A型又はB型が12.8%となっており、B型が7割近くを占めています。

今シーズンである2017年第36週から2018年第4週までの累積報告数(n=4842)によると、性別では男性が49.8%(2421名)、女性が50.2%(2432名)で、年齢階級別の一年代当たりでは7歳(7.6%:370名)、6歳(7.3%:355名)、5歳(6.8%:329名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の71.5%、10歳未満は全体の50.25%となっています。また、過去10年の報告数との比較では、40歳代以上で既に平均を上回っており、特に50歳代及び80歳代で平均+SDを上回っています。



	第4週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		警報	警報	警報	警報	警報	警報	警報
過去10年の同時期との比較		非常に多い	非常に多い	とても多い	非常に多い	非常に多い	非常に多い	多め
昨年の同時期との比較		多い	多い	多い	多い	多い	多い	少ない